

改革概論(四)

大内 民 惠
と比較對照した丈でも、智識技能の教育方面は兎に角として精神教育方面に於ては恐らく如何なる人でも直覺的に其目的の幾分をも達せられてゐないことを感ずることだらうと思はれます又畏くも

明治大帝 が「朕爾臣民と共に拳々服膺して其徳をにせんことを庶幾ふ」と仰せられて下し給へる教育勅語、宜しく上下心を一にして忠實業に服し勤儉産を治め惟信惟義醇厚徳を成し華を去り實に就き荒意相誠め

國民教育

國民に其能を示されてある午後三時散會したにも拘らず我國の現状は以上一、技術員の設置上の勅語並證書は之れを

平の町會

平水道の起債が認可に決定せるは既報の如くが町會では来る卅一日午後一時左記追加其他に關して町會を開かれる豫算關係は同工事によるもの、由

郡農協議會

石城郡農會主催の町農會役員並に農事實行組合協役議會は廿七日午前十一時半

傷害沙汰

石城郡川部村字沼田農芳賀晴吉(三)は二十七日午後三時頃同村同字榑田末次郎方の家屋新築祝に招かれ祝酒に酔つた上同席して居た同

平商業校

平商業學校では廿七八日兩日入學考査を行つたが廿九日午前中合格者をさるる受

櫻の賣店

平公園内に於ける櫻花期の賣店は町役場で八名を定員としたに對し卅六名の申込

生徒募集

本 科 五十名
裁縫專修科 百 名
師範科 五十名
專攻科 三十名
文部大臣 認可
藤田女學校 (平町田町)
願書 三月二十日限り
湯本藤田女學校並に江名藤田女學校學則は別に之を定む

未遂

石城郡湯本町入山炭坑坑夫にしてこの難關を打開すべしと、これが平町の現在と處する道は後者をとるより將來に向つて課せられたる外ないのだ

經濟相雜觀

平の炭業は同様に不景氣の先兆をかがげなければならぬのだ平地方の不景氣は他地方に比して深刻な理だ

乗合 間

賞切は 何時でも お召に 應じます

三井自動車部

電話一五六番

祝發刊

平町長 伏見彦衛

祝發刊

議員 若松美三

價之廉 質之良

高橋屋

高橋屋

高橋屋

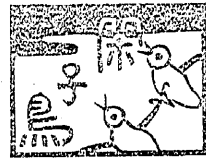


組合に就て (五)

地方農林部

尾形治右衛門

三、購買組合 此の組合には二つの種類があり...



造る様にならねばなりませぬ、農村の購買組合ならば苗圃を設けて種を生育するとか種播場を設けて種を播く、種を播きし之れを組合員に安價に賣却して生産の改良進歩を圖るとか種々の應用活用の出来る仕組になつて居ります。(つづく)

平水道の起債も意地と張とに於ての名だたる闘將野崎の闘議一派の猛烈なる反對を浴び昨年来は販賣組合で少量な品物を賣るのが損であるのと同じ理由であります、小規模な生産者は個人で原料を買ふれば品質の悪い値の高いものを買はれます、此の點を以てに大量購入の出来る大規模な生産者と對立出来ませぬので如何に其生産なり製造なりを巧妙にやつても引合ふ等のものでありませぬ、そこで小生産者が寄合等々に好結果をもたらさぬつて購入するにせよ其仕入かも知れないが現水道の給に於て大規模な生産者と同等の地位に立つことが出来ぬ、斯いた意味で原料購買組合が出来て行くのでありませぬ、日用品を共同購入する消費組合も同じです、而かも消費組合は生活改善など唱へられたりしますが労働者なりが生活改善に向つて理屈にせよ限前に上を圖る爲めの唯一の組合食なくして斃れるもの見たであるのです、購買組合の時一碗の糧を分けて與ふる事業は品物をいれて分配するだけでは未だ充分である足らぬが問題、あるまいりませぬ組合に工場を設け又火災保険料の上率もめて組合員の必要な品物を超過保険の關係はないで

もない現平水道の水脈が不かれるが安く買ひたら結構足なのと火災事故關係を保なことに剩つた金は町當局の協會社そのものが語つてゐる懐へはは入らぬ、起工をのそれを局外から無視したばしてやがて町の不利益を招く様なデリケートなもの、更にまた工事豫算を指しが滞んでゐるそれを恐れぬて所用材料の暴落に言及しはならぬ。(一町民)

今やよりも後にやれと説「本欄の投稿迎撃」

共濟 各科専門

耳鼻科	醫學博士 井上俊次郎
咽喉科	醫學博士 渡部貞助
産婦人科	醫學博士 松枝茂
外科	醫學博士 桂家重
内科	醫學博士 難波次介
X光線科	醫學博士 工藤波
衛生科	醫學博士 藤波慶
試驗場	技師 高後利雄
藥局	藥劑師 吉本孝平
本院醫事	法學士 岡本忠治
本院醫務	本院主事 賀澤忠

一衛生試驗所 (共濟病院内)
一病氣相談所
一救療所

看護婦見習募集 平町電話六四一番

山野邊藥局

平町五丁目

處方調劑 藥品一般 計量器 滋養藥品 化粧品

藥劑士 山野邊東次郎

色川勝三郎商店

電話三四一番

至急御注文にも事欠きませぬ 多少に拘らず御用命を願ひます

工場 機械 設備

内外材木並に製材 帶鋸器械二臺、九鋸二臺 堅鋸器械一臺

生徒募集

文科大臣 平陽女學校

平町橋樑小路(電話四四五番)

本校第一、二、三、四年卒業五十名
本校第二、三、四年卒業五十名
技藝高等科 二、三、四年卒業五十名
全 專攻科 一、二、三年卒業三十名
右各科共入學ヲ許可ス希望者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ三月末日マデニ本校宛提出ノコト

四月四日午前十時入學式行
●學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト

大谷時計病院

平町一丁目 電話十九番

特約店

計時一コイセ (行斷下値の計時)

- 一等 蓄音器一臺 三百六十本
- 二等 置時計一個 五百本
- 三等 置時計一個 一千本
- 四等 目覺時計一個 五千本
- 五等 特製ナイフ 各部へ

時計は信用ある精工舎製品を

磐城佑賢學舎

電話七一〇番

第一 產婆看護婦 生徒募集

一回 一修業年限 產婆通じて一ケ年
一募集人員 八十名願書四月八日迄
一入學資格 高等小學卒業若くは之と同等以上の學力ある者 (無試験)

平產婆看護婦學校

校長 清野キヨ

(電話三〇七番)

第四 生徒募集

一、卒業は產科、看護婦兩科通じて一ケ年
一、入學資格 高等小學卒業又は同等以上のもの
一、申込期日 四月八日迄

平南町

石城產科婦學校

校長 應崎千代

平町一丁目 電話二五五番